

# 西南戦争時の塹壕・堡壘か

## 長尾山―小梓峠―和田越―延岡

# 稜線に残るくぼ地や堀切

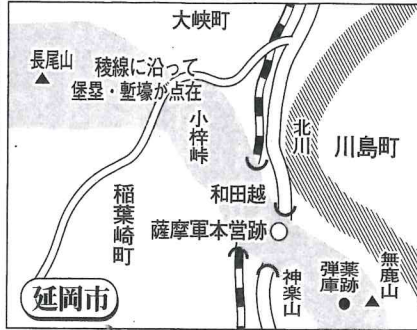
# 人知れず眠る遺構



長尾山一本松近く、写真の奥がくぼ地になっている。北側に向いており、政府軍が造った塹壕・堡壘と思われる



延岡市 小梓峠の南斜面にある自然縦穴。穴は円柱状の段になっている。薩摩軍の弾薬庫跡とみられる。



国内最大の内乱となった西南戦争は、1877(明治10)年8月15日、延岡の和田越で最終決戦を迎え、薩摩軍の敗北で幕を閉じた。一帯の無鹿山から和田越、小梓峠、長尾山の稜線(りょうせん)には不思議なくぼ地や堀切の跡が今も点在している。これらは西南戦争時の遺構ではないのか。少年のころからこれらの存在を知っていた同市無鹿町の牧野義英さん(68)は周辺を丹念に調査、加えて口伝や逸話から、決戦のために薩摩軍、政府軍が築いた戦争遺構に間違いなく確信を深めている。



和田越から長尾山に点在するのは塹壕(えんごう)と、未調査の場所もある。調査は、生い茂る草木を

## 小梓峠の堀切と塹壕

薩摩軍の弾薬庫跡か 無鹿山の不思議な縦穴

延岡市 小梓峠の南斜面にある自然縦穴。穴は円柱状の段になっている。薩摩軍の弾薬庫跡とみられる。



小梓峠付近。写真下は1900年代に造られた土道。上は豊後街道を切断したとみられる堀切

延岡市 小梓峠の南斜面にある自然縦穴。穴は円柱状の段になっている。薩摩軍の弾薬庫跡とみられる。

延岡市 小梓峠の南斜面にある自然縦穴。穴は円柱状の段になっている。薩摩軍の弾薬庫跡とみられる。

延岡市 小梓峠の南斜面にある自然縦穴。穴は円柱状の段になっている。薩摩軍の弾薬庫跡とみられる。

延岡市 小梓峠の南斜面にある自然縦穴。穴は円柱状の段になっている。薩摩軍の弾薬庫跡とみられる。